

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終る2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010bpi&be(v.2.11)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)アステック厚木IC工場	階数	地上2F
建設地	厚木市長沼字北耕地246番	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	52人
気候区分		年間使用時間	260時間/年
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	2015年2月10日
敷地面積	2,496 m ²	作成者	(株)アースデザイン設計
建築面積	1,131 m ²	確認日	2015年2月10日
延床面積	2,170 m ²	確認者	(株)アースデザイン設計



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 91%

上記+ 以外の: 91%

上記+: 91%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境 (敷地内): 3

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 今回の事業計画では、既設が工業団地の中にあり、配送センターであった建物とほとんど同じ大きさ・配置として計画をしている。外周道路側はフェンス等を無くし、植栽等を配置し、周辺環境に溶け込むように外装の色彩計画も配慮している。室内的には、従業員の執務環境を快適に保ち、設備等のメンテナンス性も考慮して、建物の断熱性能等も含め省エネ性にも寄与した事業計画となっている。		0
Q1 室内環境 通路・トイレ・事務所・設計スペースには、低汚染で空気環境の良くなる素材を採用して、ゾーンごとの細かい温度制御ができるパッケージエアコンを採用して執務環境を快適にしている。	Q2 サービス性能 設備配管・配線を容易にメンテナンス出来るシステムを採用して、取替時に設備を簡単に交換できるような構造にしている。	Q3 室外環境 (敷地内) 室外環境については、敷地南・東・北側に緑地を配置して南側屋根面にも屋上緑化をして環境に配慮している。また、周りの環境が工場地帯であるので既存の景観に配慮して建物の色彩は落ち着いたものになっている。
LR1 エネルギー 建物に使われる照明器具は、全て使用エネルギーの少ないLEDしている。空調機は、最新の省エネ機種を採用している。また、建物全体外皮は、断熱を図りかつ遮熱シートを施している。	LR2 資源・マテリアル 敷地内での雨水処理は、全体で厚木市の雨量データで最大雨量の1/2を浸透できるように配慮している。その中で浸透アパットの砕石に再生路盤を採用している。	LR3 敷地外環境 建物は精密機械製造工場で大気汚染の発生するような汚染物質は無い、建物の高さは10m以下に抑え、風を回避するように配置して周りの建物との調和を図っている。また、従業員の駐車場・駐輪場の確保を行い、敷地内通路・搬入路導線を考慮した配置計画をしている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される